

PowerChute® Business Edition v6.1.2J

補足説明書 日立編

【形名：GHS - VSUUP81】

PowerChute® Business Edition v6.1.2J
補足説明書 日立編

はじめに

このたびは、PowerChute® Business Edition v6.1.2Jをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本書は、PowerChute® Business Edition v6.1.2J をご使用になる際の注意事項をまとめたものです。ご使用前に、必ずお読みくださいますようお願い致します。

本書では以降、

PowerChute® Business Edition v6.1.2J を、本製品 または、PCBE、
無停電電源装置を、UPS装置、
UPSインタフェース拡張ユニットと UPSインタフェース拡張ボードを総称して、UPS拡張ユニット、
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0、
Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition version 4.0 を総称して、Windows NT、
Microsoft® Windows® 2000 Server、
Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server を、Windows 2000
Microsoft® Windows® Server 2003, Standard Edition、
Microsoft® Windows® Server 2003, Enterprise Edition を、Windows 2003、
Windows NT、Windows 2000、Windows 2003を総称して Windows
と省略させていただきます。

ご注意：本書は、改良のため予告なしに変更することがあります。

PowerChuteは、American Power Conversion Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Microsoft、Windows NT、Windows は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他記載されている製品名は登録商標または商標です。

(C)Copyright Hitachi, Ltd. 2003

目 次

1 . 適用機種と接続構成	1
2 . 適用OS	1
3 . 本製品の概要	2
3 . 1 コンポーネント	2
3 . 2 コンポーネントの配置	2
4 . インストール	2
4 . 1 導入時の注意事項	2
4 . 2 PCBE エージェントのインストール	3
4 . 3 PCBE サーバのインストール	5
4 . 4 PCBE コンソールのインストール	6
4 . 5 UPSSleep のインストール	7
5 . アンインストール	8
6 . 使用上の注意事項	9
6 . 1 PCBE 全般について	9
6 . 2 PCBE コンソール	10
6 . 3 PCBE サーバ	12
6 . 4 PCBE エージェント	12
6 . 5 PCBE エージェント WebUI	13
7 . UPS 拡張ユニット使用時の電源障害発生時シャットダウンシーケンスについて	15
7 . 1 コンファームモード(*1)	15
7 . 2 タイマーモード(*1)	17
7 . 3 UPS 拡張ユニット使用時の全般的な留意事項	18
8 . スケジュールシャットダウンシーケンスについて	19
8 . 1 UPS 拡張ユニット未使用時	19
8 . 2 UPS 拡張ユニット使用時	20

1 . 適用機種と接続構成

本製品は、以下のシステム装置と接続構成にてご使用になることができます。

[システム装置名]

- ・ H A 8 0 0 0 x 1 シリーズ以降

[接続構成]

シリアル接続

制限：USB 接続構成は、未サポートです。

[USP拡張ユニット]

名称	形式	仕様
UPS 拡張ユニット	x x - B U A 7 8 0	ShareUPS 8 ポート
UPS I/F 拡張ボード	x x - B U A 7 0 0	Expander ボード 2 ポート

2 . 適用OS

本製品は、以下のOS（オペレーティングシステム）上でご使用になることができます。

- ・ Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0
Service Pack 6a 以降
- ・ Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition version 4.0
Service Pack 6a 以降
- ・ Microsoft® Windows® 2000 Server
Service Pack 2 以降
- ・ Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server
Service Pack 2 以降
- ・ Microsoft® Windows® Server 2003, Standard Edition
- ・ Microsoft® Windows® Server 2003, Enterprise Edition

尚、PowerChute Business Edition コンソール機能については、上記OSに加え下記OS上でもご使用になることができます。

- ・ Microsoft® Windows® 2000 Workstation Service Pack 2 以降
- ・ Microsoft® Windows® XP Professional Service Pack 1 以降

補足：

本製品に同梱されている、Linux/RadHat 用モジュールは未サポートです。

3 . 本製品の概要

3 . 1 コンポーネント

本製品は、以下の3つのコンポーネントで構成されます。

(1) PowerChute Business Edition エージェント(以下、PCBE エージェント)

UPS 装置のステータス監視機能および停電時、UPS 装置に接続されているシステム装置のシャットダウン機能を提供します。PCBE エージェントは、UPS 装置に直接接続されている各システム装置上にインストールする必要があります。

(2) PowerChute Business Edition サーバ(以下、PCBE サーバ)

PCBE エージェントの設定と監視を行ないます。PCBE サーバは PCBE エージェントから情報を収集してイベントの通知を行いまた、PowerChute Business Edition コンソールとの通信を行ないます。

PCBE サーバは、最大25台の PCBE エージェントを管理することができます。PCBE サーバと PCBE エージェントは、それぞれのコンポーネントを、インストール時に設定する「ユーザ名」と「パスワード」を対として1つの管理グループ形成します。1つの管理グループ内に複数の PCBE サーバを設置することはできません。

(3) PowerChute Business Edition コンソール(以下、PCBE コンソール)

PCBE サーバに接続して PCBE エージェントの管理と設定を行います。

3 . 2 コンポーネントの配置

本製品が提供する3つのコンポーネントは、以下の組み合わせで使用することができます。

- (1) PCBE エージェント / PCBE サーバ / PCBE コンソールをすべて別のシステム装置にインストールする
- (2) PCBE エージェント / PCBE サーバ / PCBE コンソールをすべて同一のシステム装置にインストールする
- (3) PCBE サーバと PCBE コンソールを同一のシステム装置にインストールする
- (4) PCBE エージェントと PCBE サーバを同一のシステム装置にインストールする
- (5) PCBE エージェントと PCBE コンソールを同一のシステム装置にインストールする

障害発生時の UPS 装置との対応は、すべて PCBE エージェントが行います。従って、PCBE サーバ、PCBE コンソールは常時起動させておく必要はありません。

4 . インストール

本製品をインストールする前に CD-ROM に格納されている以下のドキュメントを必ずお読みください。

「PowerChute Business Edition v6.1J – Release Note」

格納場所： %Windows%\Bin\relnotes_jp.chm (HTML Help 形式)

「PowerChute Business Edition v6.1J – Getting Started」

格納場所： %Windows%\Bin\getstart_jp.chm (HTML Help 形式)

「PowerChute Business Edition v6.1J – Wizard」

格納場所： %Windows%\Bin\wizard_jp.chm (HTML Help 形式)

4 . 1 導入時の注意事項

- ・ PCBE エージェントと PowerChute plus または、OS 標準 UPS サービスは同一システム装置上で同時に使用することはできません。Windows 標準の UPS サービスを使用する場合は、本製品をアンインストールしてください。
- ・ Windows2003 環境に PCBE エージェントをインストールすると、「電源管理」から「UPS」タグが削除されます。
- ・ 本製品に同梱している UPS 接続ケーブルで、WindowsNT 標準 UPS サービスは使用できません。

- ・「UPS のコンピュータ・インターフェイス・ポート」と「UPS 拡張ユニット」から複数のシステム装置へ接続している場合、停電が長引いた場合でも全てのシステム装置を安全にシャットダウンさせるためには、接続したシステム装置それぞれに PCBE エージェントをインストールする必要があります。

4.2 PCBE エージェントのインストール

4.2.1 インストール前の準備作業

- (1) PCBE エージェントをインストールするシステム装置の OS が WindowsNT の場合、PCBE エージェントをインストールする直前まで、UPS ケーブルをシステム装置に接続しないでください。
 - (2) 画面の色の設定は、256 色よりも多い色数を設定しておいてください。
 - (3) PCBE エージェントと PowerChute plus または、OS 標準 UPS サービスは同一システム装置上で同時に使用することはできません。
- ・PowerChute plus がインストールされている場合には、アンインストールを行ってください。
 - ・OS 標準の UPS サービスが設定されている場合には、設定を解除してください。確認方法と解除方法は以下の通りです。

【Windows NT の場合】

コントロールパネルの「無停電電源(UPS)」アイコンをダブルクリックする。

「無停電電源装置がインストールされているポート」チェックボックスにチェックが付いていないことを確認し、「キャンセル」ボタンをクリックする。

「無停電電源装置がインストールされているポート」チェックボックスにチェックが付いている場合は、チェックをはずし「OK」ボタンをクリックする。

【Windows 2000/Windows2003 の場合】

コントロールパネルの「電源オプション」の UPS タブで「選択」ボタンをクリックする。

「UPS の選択」ウィンドウで「製造元の選択」に「なし」が選ばれていることを確認し、「キャンセル」ボタンをクリックする。

「UPS の選択」ウィンドウで「製造元の選択」が設定されている場合は、「なし」を選び「完了」ボタンをクリックする。

(3) シリアルポートの設定

UPS 接続を行なうシリアルポートに対して、以下の設定を行なってください。

パラメータ	設定
ボーレート(ビット/秒)	2400
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	XON/OFF

[設定手順]

【Windows NT の場合】

コントロールパネルの「シリアルポート」アイコンをダブルクリックする。

UPS ケーブルを接続するシリアルポートを選択し、[設定]ボタンをクリックする。

各項目を上記表の通り設定する。

[詳細]ボタンをクリックし、「FIFO を有効にする」のチェックボックスにチェックを入れて、[OK]ボタンを押す。

再起動要求されたら、[再起動しない]ボタンを押し、続けて [閉じる] ボタンを押す。

【Windows 2000/Windows2003 の場合】

コントロールパネルの「システム」アイコンをダブルクリックする。

「ハードウェア」タブを選択し、[デバイスマネージャ]をクリックする。

「ポート(COM と LPT)」をクリックし、UPS ケーブルを接続するシリアルポートをダブルクリックする。

「ポートの設定」タブを選択し、各項目を上記表の通り設定する。

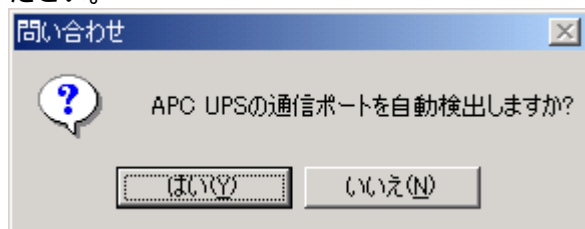
[詳細]ボタンをクリックし、「FIFO バッファを使用する(16550 互換の UART が必要)」のチェックボックスにチェックを入れて、[OK]ボタンを押す。

[OK]ボタンを押す。

- (4) PCBE コンソールをインストールするシステム装置の Windows のネットワーク設定(IP アドレス)はインストール前に完了させておいてください。
- (5) PCBE コンソールをインストールする前に、LAN の状態を「有効」(システム装置に LAN ケーブルを接続し、先につながる HUB も稼動状態にする。DHCP より IP アドレス取得が行われる場合には、DHCP によるアドレス取得がされた状態にする。)にしておいてください。

4 . 2 . 2 インストール手順

- (1) インストール前の準備作業が完了したら、システム装置をシャットダウンして、システム装置の電源を OFF する。
- (2) UPS 接続ケーブル(本製品同梱のケーブル：黒色)を UPS 装置とシステム装置に接続する。システム装置に接続する場合、先に行なったシリアルポート設定と同じポートにケーブルを接続してください。UPS 拡張ユニットの Basic Port とシステム装置を接続する場合には、Basic Port 接続用ケーブル(灰色)を使用してください。
- (3) システム装置の電源を入れる。
- (4) Windows が起動したら、「Administrator」でログインする。
- (5) PCBE の CD-ROM を CD-ROM 装置に入れる。
- (6) しばらくすると、「APC PowerChute Business Edition のセットアップ」画面が起動します。画面が表示されない場合には、[スタート]->[ファイル名を指定して実行]で「F:¥Windows¥setup.exe」と入力し、[OK]をクリックしてください。
(F: は、CD-ROM ドライブ名)
- (7) [製品のインストールを]をクリックします。
- (8) 「エージェント」の[Install]ボタンをクリックします。
- (9) 以降、画面の指示に従いインストールを行います。
- (10) 以下の画面が表示されたら、接続している UPS 装置に応じて以下の手順でインストールを行ってください。



【 SmartUPS または UPS 拡張ユニット(ShareUPS)の AdvancedPort に接続している場合】

[はい] をクリックして、(11) に進みます。

【 UPS 拡張ユニット(ShareUPS)の Basic Port に接続している場合】

- ・ [いいえ] をクリックします。
- ・ 「UPS タイプ」のプルダウンから 「Share-UPS のベーシックポート」を選択します。
- ・ 「通信ポート」のプルダウンから接続しているポートを選択します。
- ・ [次へ >] ボタンをクリックして、(11)に進みます。

【 UPS I/F 拡張ボード (Expander ポート) に接続している場合】

- ・ [いいえ] をクリックします。
- ・ 「UPS タイプ」のプルダウンから 「Interface Expander のベーシックポート」を選択します。
- ・ 「通信ポート」のプルダウンから接続しているポートを選択します。
- ・ [次へ >] ボタンをクリックして、(11)に進みます。

(11) 「Insatall Shield Wizard が完了しました」が表示されたら、[完了 >] ボタンをクリックします。

4 . 3 PCBE サーバのインストール

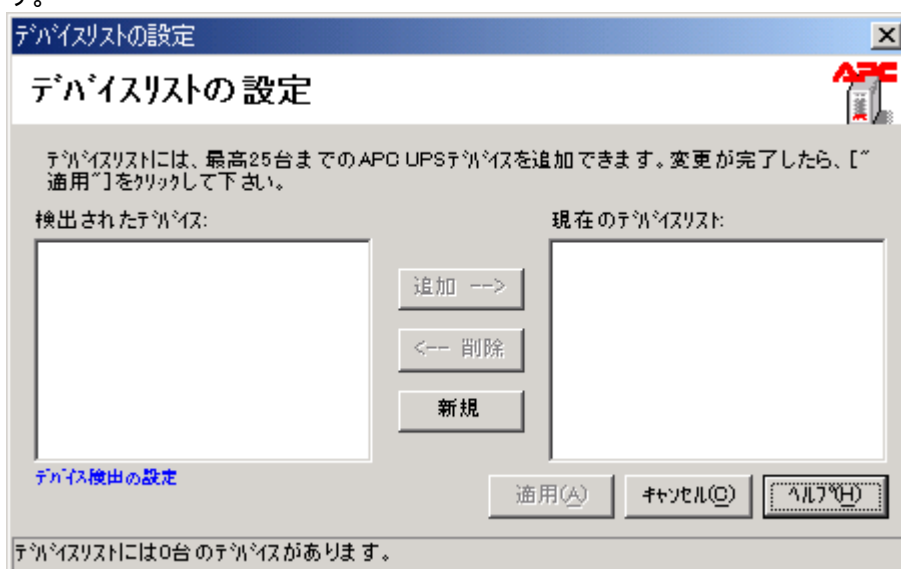
4 . 3 . 1 インストール前の準備作業

- (1) PCBE サーバをインストールするシステム装置の Windows のネットワーク設定(IP アドレス)はインストール前に完了させておいてください。
- (2) PCBE サーバをインストールする前に、LAN の状態を「有効」(システム装置に LAN ケーブルを接続し、先につながる HUB も稼動状態にする。DHCP より IP アドレス取得が行われる場合には、DHCP によるアドレス取得がされた状態にする。)にしておいてください。

4 . 3 . 2 インストール手順

- (1) 「Administrator」でログインする。
- (2) PCBE の CD-ROM を CD-ROM 装置に入れる。
- (3) しばらくすると、「APC PowerChute Business Edition のセットアップ」画面が起動します。
画面が表示されない場合には、[スタート]->[ファイル名を指定して実行]で
「F:¥Windows¥setup.exe」と入力し、[OK]をクリックしてください。
(F: は、CD-ROM ドライブ名)
- (4) [製品のインストールを] をクリックします。
- (5) 「サーバ」の[Install]ボタンをクリックします。
- (6) 以降、画面の指示に従いインストールを行います。
- (7) 「Insatall Shield Wizard が完了しました」が表示されたら、[完了 >] ボタンをクリックします。
- (8) 続いて、PCBE サーバへのログインが自動的に実行されます。
- (9) 「設定プロファイルの作成」画面が表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。
- (10) 「通信手段の設定」画面が表示されたら、1つ以上の通知手段を選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。

- (11) 「設定プロファイルの作成」が完了すると、引き続き「デバイスリストの設定」画面が表示されます。



PCBE サーバと同一サブネットワーク内で稼働中の PCBE エージェントがあれば、「検出されたデバイス」にリストが表示されます。追加するデバイスを選択し、[追加 →] ボタンをクリックし続いて [適用] ボタンをクリックします。デバイスは、通常ホスト名で表示されます。

- 【 PCBE エージェントが PCBE サーバと同一サブネットワーク上に存在しない場合】
「デバイス検出の設定」をクリックし、デバイス検出する IP セグメントを追加するか、[新規] ボタンをクリックして、個々にデバイスの登録を行ってください。

補足：

PCBE サーバをインストールしたシステム装置の LAN が無効の状態(IP アドレスが有効になっていない状態)の場合、「検出されたデバイス」の一覧に「127.0.0.2」「127.0.0.3」…と IP アドレスが検出される場合があります。その場合には、[キャンセル] をクリックして LAN を有効にした状態で再度、「デバイスリストの設定」を起動し、デバイスの追加を行ってください。

- (12) デバイスが正常に追加されたら、[閉じる]をクリックします。

4.4 PCBE コンソールのインストール

4.4.1 インストール前の準備作業

- (1) PCBE コンソールをインストールするシステム装置の Windows のネットワーク設定(IP アドレス)はインストール前に完了させておいてください。
- (2) PCBE コンソールをインストールする前に、LAN の状態を「有効」(システム装置に LAN ケーブルを接続し、先につながる HUB も稼働状態にする。DHCP より IP アドレス取得が行われる場合には、DHCP によるアドレス取得がされた状態にする。)にしておいてください。
- (3) Windows NT 環境に PCBE コンソールをインストールする場合には、事前に Internet Explorer Version5.0 以降のインストールを行ってください。

- (4) PCBE エージェントをインストールするシステム装置で「SNMP Service」を使用する場合には、PCBE エージェントのインストール前に必ず「SNMP Service」のインストールを行っておいてください。

制限：

PCBE エージェントインストール後に、「SNMP Service」をインストールした場合 PCBE エージェントのアンインストール時に「SNMP Service」もアンインストールされます。

4.4.2 インストール手順

- (1) 「Administrator」でログインする。
- (2) PCBE の CD-ROM を CD-ROM 装置に入れる。
- (3) しばらくすると、「APC PowerChute Business Edition のセットアップ」画面が起動します。画面が表示されない場合には、[スタート]->[ファイル名を指定して実行]で「F:¥Windows¥setup.exe」と入力し、[OK]をクリックしてください。
(F: は、CD-ROM ドライブ名)
- (4) [製品のインストールを]をクリックします。
- (5) 「コンソール」の[Install]ボタンをクリックします。
- (6) 以降、画面の指示に従いインストールを行います。
- (7) インストールが完了すると、ログイン画面が表示されます。
- (8) PCBE エージェント、PCBE サーバで設定した「ユーザ名」、「パスワード」を入力し「サーバ」には PCBE サーバの IP アドレスを入力して、[接続]をクリックします。
- (9) PCBE コンソール画面が起動します。

4.5 UPSSleep のインストール

UPSSleep は標準インストールではインストールされません。
必要に応じて、以下の手順でインストールを行ってください。

- (1) 「Administrator」でログインする。
- (2) PCBE の CD-ROM を CD-ROM 装置に入れる。
- (3) [スタート]->[ファイル名を指定して実行]で「F:¥UPSSleep¥setup.exe」と入力し、[OK]をクリックしてください。
(F: は、CD-ROM ドライブ名)
- (4) 以降、画面の指示に従いインストールを行います。

UPSSleep の使用方法については、

C:¥Programfiles¥APC¥PowerChute Business Edition¥UPSSleep¥UPSSleepman.htm
をご覧ください。

5 . アンインストール

アンインストール手順は以下のとおりです。

【Windows NT の場合】

[スタート] -> [設定] -> [コントロールパネル] -> [アプリケーションの追加と削除] でアンインストールするプログラムを指定して [追加と削除] を行います。

【Windows2000 の場合】

[スタート] -> [設定] -> [コントロールパネル] -> [アプリケーションの追加と削除] でアンインストールするプログラムを指定して [削除] を行います。

【Windows2003 の場合】

[スタート] -> [コントロールパネル] -> [プログラムの追加と削除] でアンインストールするプログラムを指定して [変更と削除] を行います。

補足 :

PCBE エージェント、PCBE サーバ、PCBE コンソールのアンインストール順番については特に制約はありません。

制限 :

- PCBE サーバをアンインストールする場合には、PCBE コンソールを終了してからにしてください。
- PCBE エージェント環境で、コマンド実行のためのバッチファイル等を
C:¥Programfiles¥APC¥PowerChute Business Edtion¥agent¥cmdfiles
に格納してあると、そのディレクトリと格納したファイルはアンインストールされません。
- 「APC PowerChute Business Edtion」プログラムグループは削除されません
(プログラムグループの中は、「なし」となります)
- PCBE エージェントアンインストール時に
C:¥Programfiles¥APC¥PowerChute Business Edtion¥agent¥jre
ディレクトリ以下が空のディレクトリのみ存在し削除されないことがあります。
エクスプローラ等でディレクトリの削除を行ってください。
- システム装置に「SNMP Service」がインストールされている場合、PCBE エージェントをアンインストールすると「SNMP Service」もアンインストールされる場合があります。PCBE エージェントのアンインストール後に「SNMP Service」をご使用になる場合には「SNMP Service」がサービスに存在しているかを確認し、アンインストールされている場合には、再度「SNMP Servie」をインストールしてください。

6 . 使用上の注意事項

6 . 1 PCBE 全般について

- (1) PCBE ログイン時の「ユーザ名」、「パスワード」
インストール時に設定した「ユーザ名」、「パスワード」に誤りがあった場合、PCBE サーバと PCBE エージェントでは、再インストールが必要となります。
- (2) 接続数
PCBE サーバが管理できる PCBE エージェントは最大 25 台です。
PCBE サーバに接続できる PCBE コンソールについては接続数の制限はありません。同時接続も可能ですが、設定変更が個々の PCBE コンソールから同時に行える点にご注意ください
- (3) Windows2003 環境で電源障害によるシャットダウンや、スケジュールによるシャットダウンを行った場合、イベントログに
「次の理由で、プロセス shutdown.exe は、ユーザー NT AUTHORITY\SYSTEM の代わりに、
コンピュータ xxxxx の シャットダウンを始めました： この理由のタイトルが
見つかりません
理由コード： 0xffffffff
シャットダウンの種類： シャットダウン
コメント： 」
が出力されます。（xxxxx は、コンピュータ名）
- (4) ブロードキャストメッセージ
 - ・設定プロファイルで「ブロードキャスト通知の設定」を有効にした場合、メッセージは PCBE サーバから発信されます。従って、「ドメイン全体」を選択した場合には、PCBE サーバ接続されているネットワークセグメントのシステム装置にのみメッセージが通知されます。別のネットワークセグメントのシステム装置に通知が必要な場合には、「特定のアドレス」を選択し設定を行ってください。ただし、設定できるのは1台のみとなります。
 - ・ブロードキャストメッセージは、Windows のメッセンジャーサービスを介して通知されます。通知は UDP で行われるため、「ドメイン全体」を選択した場合には、メッセージ受信対象の Windows システム装置すべてがかならず通知をポップアップ表示するわけではありません。また、同一メッセージが複数ポップアップ表示される場合があります。
 - ・Windows2003 は、デフォルトで「Messenger」サービスが「無効」となっているためブロードキャストメッセージを受け取ることができません。ブロードキャストメッセージを受信する必要がある場合には「Messenger」サービスを「開始」し、「スタートアップの種類」を「自動」に変更してください。
 - ・メッセージが複数個出ている場合、重なって表示されます。従って、最新のメッセージは後ろに隠れているため、現在見えているメッセージが最新でない場合があります。また、重なったメッセージが多くなると、「OK」ボタンを押しても最新のメッセージまで表示されない場合があります。ご注意ください。
- (5) 「ローバッテリー信号時間」の参照や変更方法
「ローバッテリー信号時間」の参照や変更は、PCBE エージェント WebUI 機能で行います。
詳細は「6 . 5 PCBE エージェント WebUI」をご覧ください。

(6) UPS 装置電源回復時のシステム装置の電源 ON

障害復旧時の UPS 装置からの電源供給再開や、スケジュール運転時の電源供給再開でシステム装置の電源を ON するためには、システム装置のシステム環境の設定変更が必要になる場合があります。詳しくは、システム装置付属のハードウェアマニュアルにてご確認ください。

Windows2003 環境では、BIOS の設定で電源復旧時に常に Power ON となるよう設定の変更が必要です。

制限：

一部の機種で、電源復旧時に常に Power ON と設定する機能が BIOS がないため UPS 装置が電源回復した場合やスケジュール運転時にシステム装置が起動しないものがあります。

6.2 PCBE コンソール

- (1) PCBE コンソール機能の詳細については、PCBE コンソールのヘルプまたは、
C:\Programfiles\APC\PowerChute Business Edition\console\console_jp.chm
をご覧ください。
- (2) Windows2003 環境の場合、LAN が無効状態となっていると PCBE コンソールへのログオンができません。
- (3) PCBE コンソールに表示されているデバイスは、OS のシャットダウンが実施されるとホスト名表示から IP アドレス表示に変わります。
- (4) 電源障害発生時に「ステータス」表示が「正常」から「警告」に変わりますが、Advanced Port に接続されているデバイスは、Basic Port に接続されているデバイスに比べ、「警告」状態への切り替わりが 15 秒程度遅れます。
- (5) 稀に表示されているデバイスのステータスが変更されず、ブロードキャストメッセージが一切通知されなくなる現象が発生することがあります。その場合には、PCBE サーバ上で「APC PBE Server」サービスの「再起動」を行ってください。

6.2.1 デバイスのプロパティ

- ・表示される項目は、Advanced Port に接続されたものと、Basic Port に接続されたもので異なります。また、「詳細項目の表示」を有効にすることで表示できる項目が増えます。
- ・各種パラメータを設定した際に以下のメッセージが表示された場合は、何らかの要因で PCBE エージェント、PCBE サーバ用の設定ファイルへの書き込みが行えないことが考えられます。



以下のファイルが「読み取り専用」になっていないかを確認してください。

C:\Programfiles\APC\PowerChute Business Edition\agent\m11.cfg

C:\Programfiles\APC\PowerChute Business Edition\server\m11.cfg

また、ウイルススキャンソフトがインストールされている場合には、上記 2 つのファイルを検索対象から除外してみてください。

全般

- バッテリステータス
「データの更新」をクリックしないと最新の状態に変わりません
- UPS ステータス
「データの更新」をクリックしないと最新の状態に変わりません。
- 電源パラメータ（「詳細項目の表示」を有効化で表示）
「バッテリ切替値(上限)」と、「バッテリ切替値(下限)」は、デフォルト設定で問題ありませんが、変更を行う場合は接続される機器の保証される AC 入力電圧を確認の上、実施してください。

シャットダウン

- シャットダウンシーケンス
 - (1) 「OS のシャットダウンに必要な時間」で選択できる時間は、接続する UPS 装置によって異なります。
 - (2) コマンドファイルの作成について
コマンドファイルについては、
`C:\Programfiles\APC\PowerChute Business Edition\agent\cmdfiles\default.cmd`
に詳細が説明されていますので、作成する場合には必ずお読みください。
 - (3) 「コマンドファイル実行所要時間」
 - ・コマンドファイルの実行が指定時間内に完了しない場合、処理が途中で打ち切れ OS のシャットダウンが実行されます。
 - ・コマンドファイルの実行が指定時間以内に終了しても、指定された時間の間は OS シャットダウン処理を保留します。
- スケジュールシャットダウン
 - (1) Basic Port に接続されたシステム装置でのスケジュールシャットダウン
 - ・Basic Port に接続されたシステム装置毎にスケジュールシャットダウンの設定が可能です。ただし、再起動設定はできません。また、UPS 装置も Sleep 状態にはなりません。
 - ・設定した 1 台のみが指定された時刻にシャットダウンされます
 - ・再起動や UPS 装置を Sleep 状態にするためには、Advanced Port のシステム装置にスケジュール設定する必要があります。
 - ・Basic Port に接続されたシステム装置のスケジュールシャットダウンよりも Advanced Port のシステム装置のシャットダウンスケジュールが優先されますのでご注意ください。
(Advanced Port のシステム装置のシャットダウンではすべての Basic Port のシステム装置も同時にシャットダウンが行われます)
 - (2) スケジュールシャットダウンで設定したスケジュールは、約 10 分前にリストから削除されます。また、その時点でイベントログに「管理上のシャットダウンスケジュール済」が記録されます。この状態でシャットダウンをキャンセルする場合には、PCBE コンソールのトップ画面にてホスト名をクリックし、画面下に表示される「シャットダウンのキャンセル」を使用してください。
 - (3) セルフテストや UPS ランタイム較正はスケジュール設定できません。
 - (4) 「次の期間経過後 UPS を再起動」に設定できる最大期間は、3 日 23 時間 54 分までです。
 - (5) スケジュール設定後、[適用] をクリックすると「デバイスのプロパティ」画面を一度閉じないと「新規エントリ」、「プロパティ」、「削除」機能が使用できません。
- 電源障害（「詳細項目の表示」を有効化で表示）
 - (1) 「電源障害時のシャットダウン開始」設定を変更しても変更値が有効にならないことが稀に発生します。設定値の変更を複数回繰り返した場合には、変更対象のシステム装置上で「APC PBE Agent」サ

ービスの「再起動」を行うことを推奨いたします。

診断（「詳細項目の表示」を有効化で表示）

➤ セルフテスト

PCBE エージェントインストール後の最初の1回のみ、「セルフテスト」の実行結果が「不明」のままとなります。

➤ UPS ランタイム較正

- (1) 拡張ユニットがUPSに搭載あるいは、接続されている場合にはUPSランタイム較正は実行できません。
- (2) UPSランタイム較正を実施する場合には、「バッテリーステータス」の「容量」が100%であることが必要です。
- (3) UPSランタイム較正は、UPS装置のバッテリーをかなり消耗させてしまいます。

ログファイル

- (1) 「データログ」、「イベントログ」を参照するためには、PCBE エージェントに Internet Explorer Version 5.0 以降がインストールされている必要があります。(WindowsNT のみ)
- (2) Windows2003 上で「データログ」、「イベントログ」を表示させた場合、Internet Explorer のセキュリティ強化機能により警告画面が表示される場合があります。その場合には、PCBE サーバを信頼済みのサイトのゾーンに [追加] するか、そのまま [閉じる] をクリックして処理を続行してください。
- (3) PCBE サーバが2つ以上のLANを搭載しているシステム装置で稼動している場合、LANの構成によってはPCBE コンソール上で「データログ」、「イベントログ」の参照がエラーとなる場合があります。その場合は、ネットワーク間の経路設定を正しく設定するか、PCBE サーバにルータ機能を設定する必要があります。

6.3 PCBE サーバ

- (1) PCBE サーバのサービス (APC PBE Server) を停止する必要がある場合には、PCBE エージェントが起動していないことを確認してから停止を行ってください。PCBE エージェント接続中は、PCBE サーバを停止することができません。
- (2) デバイスリストの設定で、「現在のデバイスリスト」からデバイスの削除を行った場合、
「? デバイスリストからxxxを削除しています...」
という表示のままで、[閉じる] が有効 (クリック可能) になることがあります。その場合は有効になった時点で、[閉じる] をクリックしてください。

6.4 PCBE エージェント

USB 接続は未サポートです。シリアルケーブルにてシステム装置とUPS装置の接続を行ってください。

6.5 PCBE エージェント WebUI

UPS 装置に保持されている「ローバッテリー信号時間」の確認や変更は PCBE コンソールでは行うことができません。「ローバッテリー信号時間」については、Advanced Port に接続されているシステム装置の PCBE エージェント WebUI を使用して設定値の確認や変更を行ってください。

補足：

「ローバッテリー信号時間」は、UPS 装置がバッテリー状態で稼動し続けられる残り時間が設定値を下回った場合にローバッテリー信号を出すしきい値として使用されます。

UPS 装置出荷時のデフォルトは、2 分に設定されています。

制限：

- ・ PCBE エージェント WebUI は、Internet Explorer にて操作を行います。
- ・ 操作を行うためには、Internet Explorer の JAVA VM の機能が有効になっている必要があります。
- ・ PCBE エージェント WebUI は、以下の環境にて操作が可能です。
 - Windows2000 Server/Workstation 上の Internet Explorer 5.0 以降
 - WindowsXP 上の Internet Explorer 6.0
- ・ PCBE エージェント WebUI は、「ローバッテリー信号時間」の確認、変更用途にご使用ください。その他の項目を変更した場合、PCBE コンソールの設定項目との不一致が発生し UPS 電源管理に不都合が発生する可能性がありますのでご注意ください。

設定手順

- (1) 上記制限に一致する環境のシステム装置で Internet Explorer を起動します。
- (2) 下記 URL を指定します。
http://xxx.xxx.xxx.xxx:3052
(xxx.xxx.xxx.xxx は、接続する PCBE エージェントのインストールされたシステム装置の IP アドレスを入力してください)
- (3) 下記ログイン画面が表示されたら PCBE エージェントインストール時に設定した「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。



- (4) 管理画面が表示されますので、「保護されたシステム」->「シャットダウンの設定」をクリックします。
- (5) シャットダウンシーケンスサマリに「ローバッテリー信号時間」が表示されます。
- (6) 「ローバッテリー信号時間」の変更を行う場合には、シャットダウンシーケンスサマリに表示されている「設定」をクリックします。
- (7) システムシャットダウンの設定画面が表示されます。
- (8) 「ローバッテリー信号時間」の値をプルダウンメニューの一覧から選択します。

補足：

プルダウンメニューに表示される値はUPS装置によって異なります。

- (9) 設定後、画面下の「適用」ボタンをクリックします。
- (10) Internet Explorer を終了します。

7 . UPS 拡張ユニット使用時の電源障害発生時シャットダウンシーケンスについて

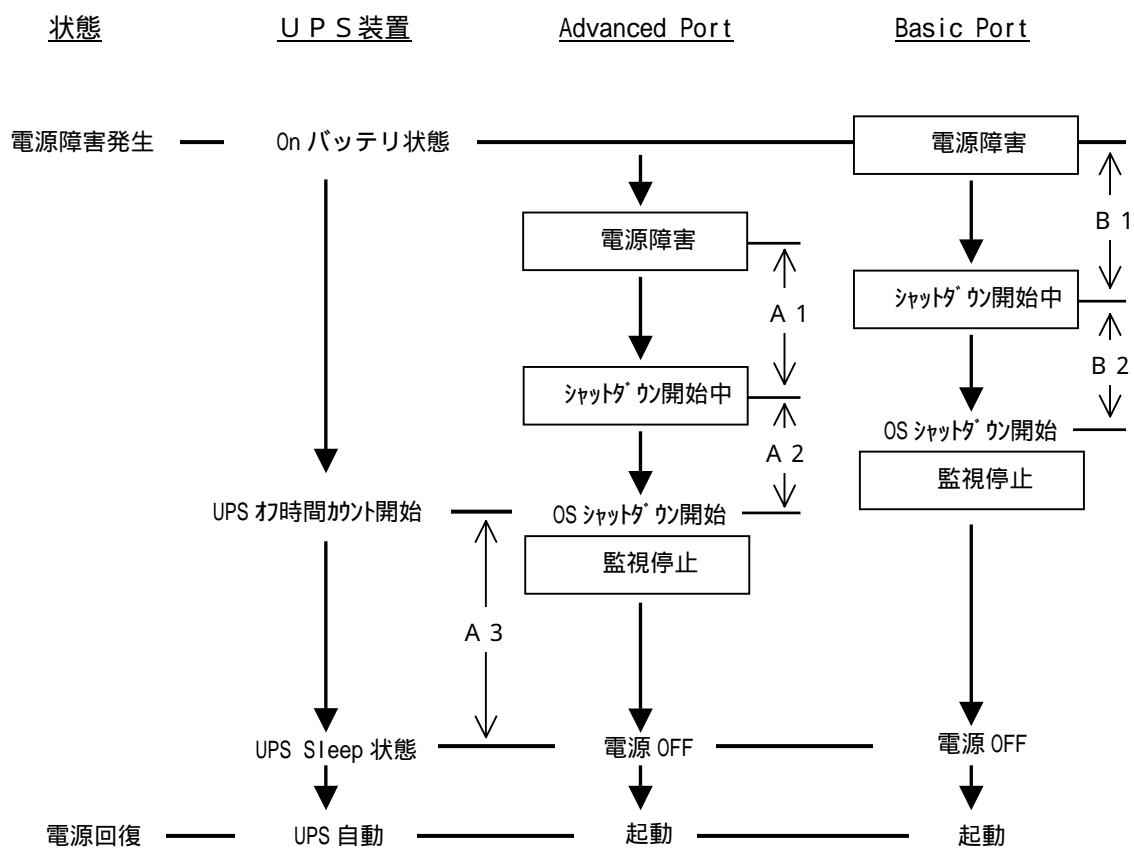
7 . 1 コンファームモード(*1)

*1:モードは、ディップスイッチで設定を行います。詳細は UPS 拡張ユニットのマニュアルをご覧ください。

(1) 電源回復時の再起動を行う場合

設定項目一覧

設定項目	Advanced Port	Basic Port
電源障害時のシャットダウン開始 (分)	A 1	B 1
マウントファイル実行所要時間 (分)	A 2	B 2
OS のシャットダウンに必要な時間 (秒)	A 3	
電源回復時の UPS 再起動	即時	



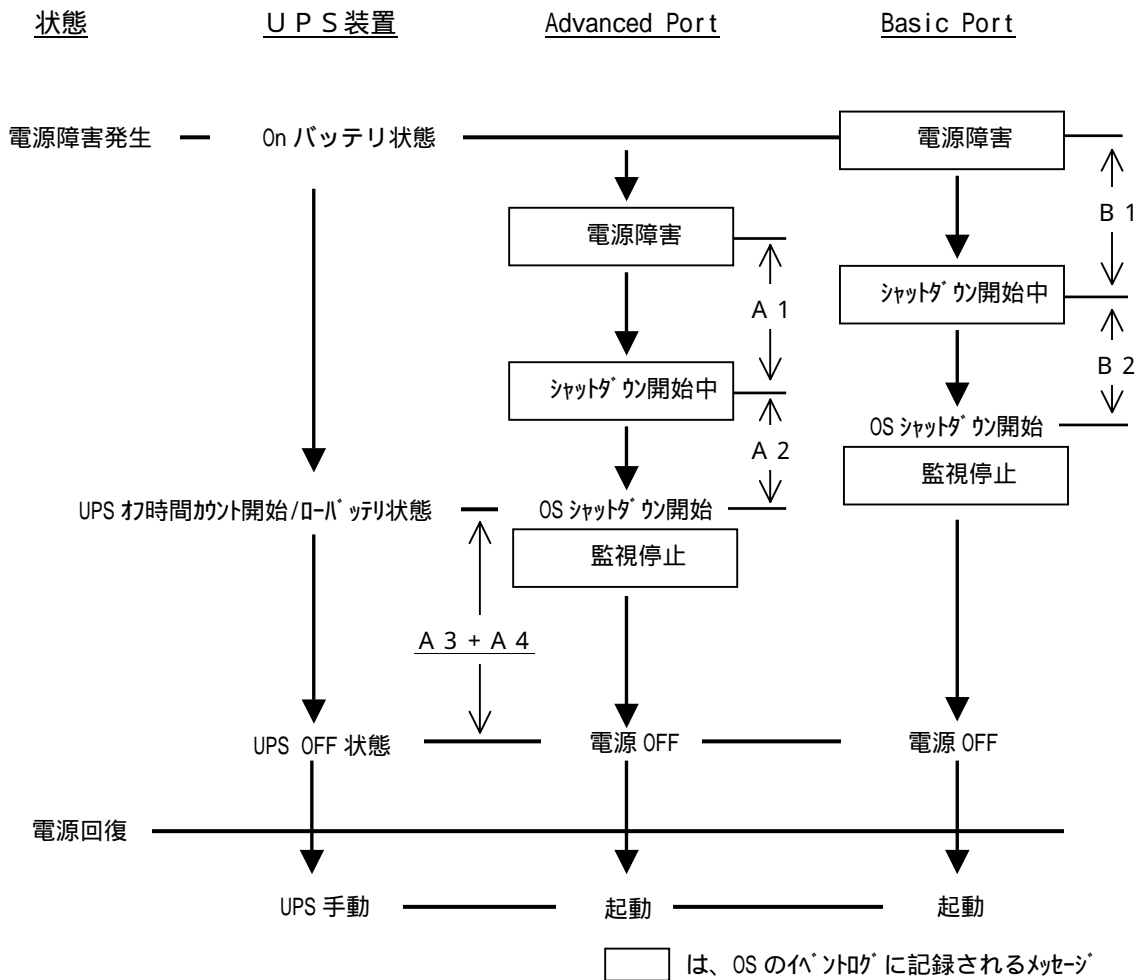
□ は、OS のイベントログに記録されるメッセージ

(2) 電源回復時の再起動を行わない場合

設定項目一覧

設定項目	Advanced Port	Basic Port
電源障害時のシャットダウン開始 (分)	A 1	B 1
マウントファイル実行所要時間 (分)	A 2	B 2
OS のシャットダウンに必要な時間 (秒)	A 3	
電源回復時の UPS 再起動	しない	
UPS 0-バッテリー信号時間(分) (*2)	A 4	

*2: 本設定項目は、PCBE コンソールから設定することはできません。PCBE エージェント WebUI から設定を行ってください。詳細は、「6.5 PCBE エージェント WebUI」をご覧ください。



7.2 タイマーモード(*1)

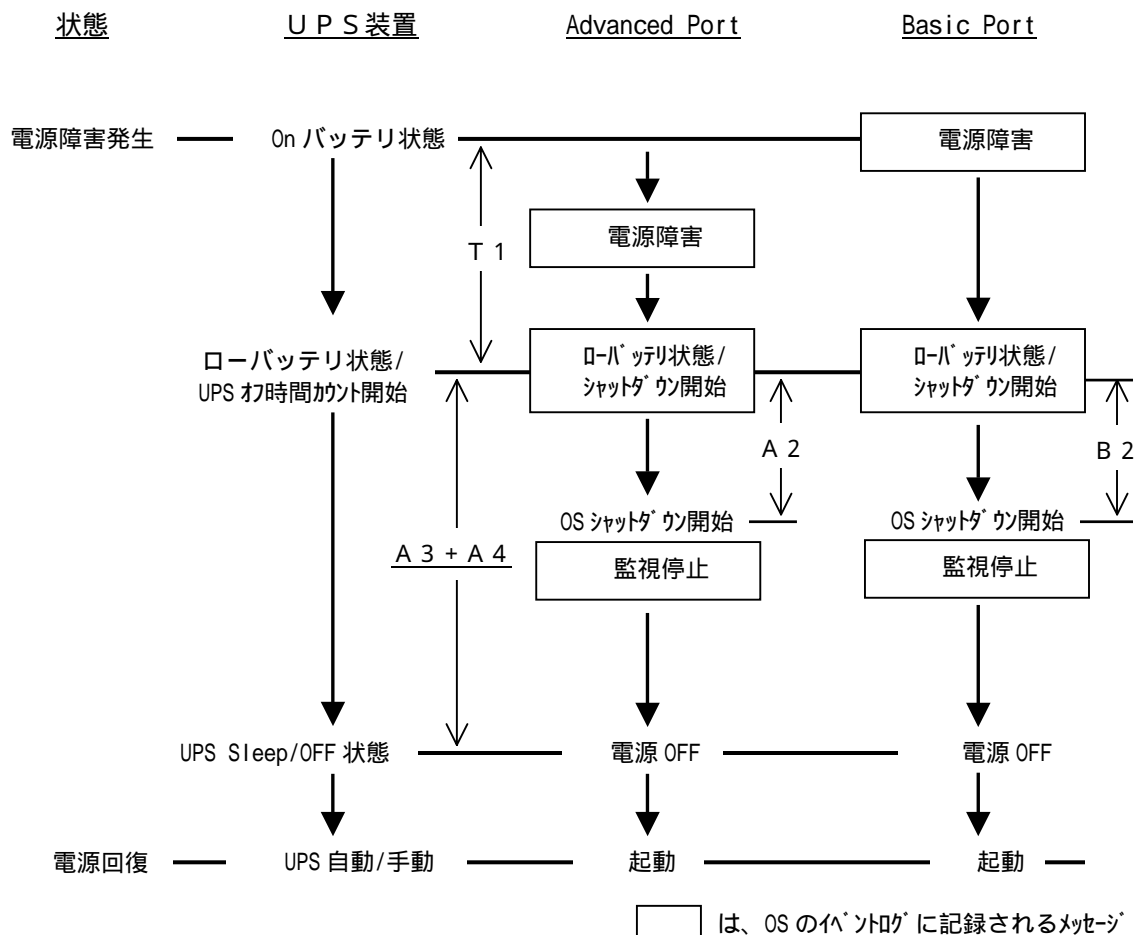
*1:モードは、ディップスイッチで設定を行います。詳細は UPS 拡張ユニットのマニュアルをご覧ください。

設定項目一覧

設定項目	Advanced Port	Basic Port	拡張ユニット
電源障害時のシャットダウン開始(分)	A 1	B 1	
コマンドファイル実行所要時間(分)	A 2	B 2	
OS のシャットダウンに必要な時間(秒)	A 3		
電源回復時の UPS 再起動	しない		
UPS ローバッテリー信号時間(分)(*2)	A 4		
UPS 拡張ユニットのタイマー時間(分)(*3)			T 1

*2:本設定項目は、PCBE コンソールから設定することはできません。PCBE エージェント WebUI から設定を行ってください。詳細は、「6.5 PCBE エージェント WebUI」をご覧ください。

*3:ディップスイッチで設定を行います。詳細は UPS 拡張ユニットのマニュアルをご覧ください。



補足:

タイマーモードは、電源障害発生から設定されたタイマー時間経過後にローバッテリー状態となります。その後、「OS のシャットダウンに必要な時間」+「UPS ローバッテリー信号時間」経過後にシステム装置のシャットダウン状態にかかわらず UPS が Sleep 状態になります。

従って、「コマンドファイル実行所要時間」+ OS のシャットダウンにかかる時間(実測値)が「OS のシャットダウンに必要な時間」+「UPS ローバッテリー信号時間」を超えないように設定を行ってください。

7.3 UPS 拡張ユニット使用時の全般的な留意事項

- (1) 電源障害が発生し、1 台でも「シャットダウン開始中」の状態になってから電源障害が回復した場合、すべてのシステム装置はシャットダウンが行なわれます。その後、

「電源回復時の UPS 再起動」が

「即時」の場合：

UPS 装置は 1 度 Sleep 状態となり、すぐに電源供給を再開します。

「バッテリー充電が次の容量になった時」の場合：

UPS 装置は 1 度 Sleep 状態となり、容量が規定値に達した場合に電源供給を再開します。

「しない」の場合：

すべてのシステム装置がシャットダウン完了後、UPS はオフ状態となります。

上記のような場合には電源障害回復直後に、すでにシャットダウンを完了したサーバを手動で再起動しないでください。

- (2) 電源障害が発生し、すべてのシステム装置がシャットダウンを完了しても UPS 装置が Sleep 状態にならない場合、Basic Port に接続されているシステム装置に PCBE エージェントをインストールする際に「UPS タイプ」を「Back-ups」と指定したことが原因である可能性が高いと思われます。Basic Port に接続されたシステム装置の PCBE エージェントをアンインストールし、再度インストールを行ってみてください。

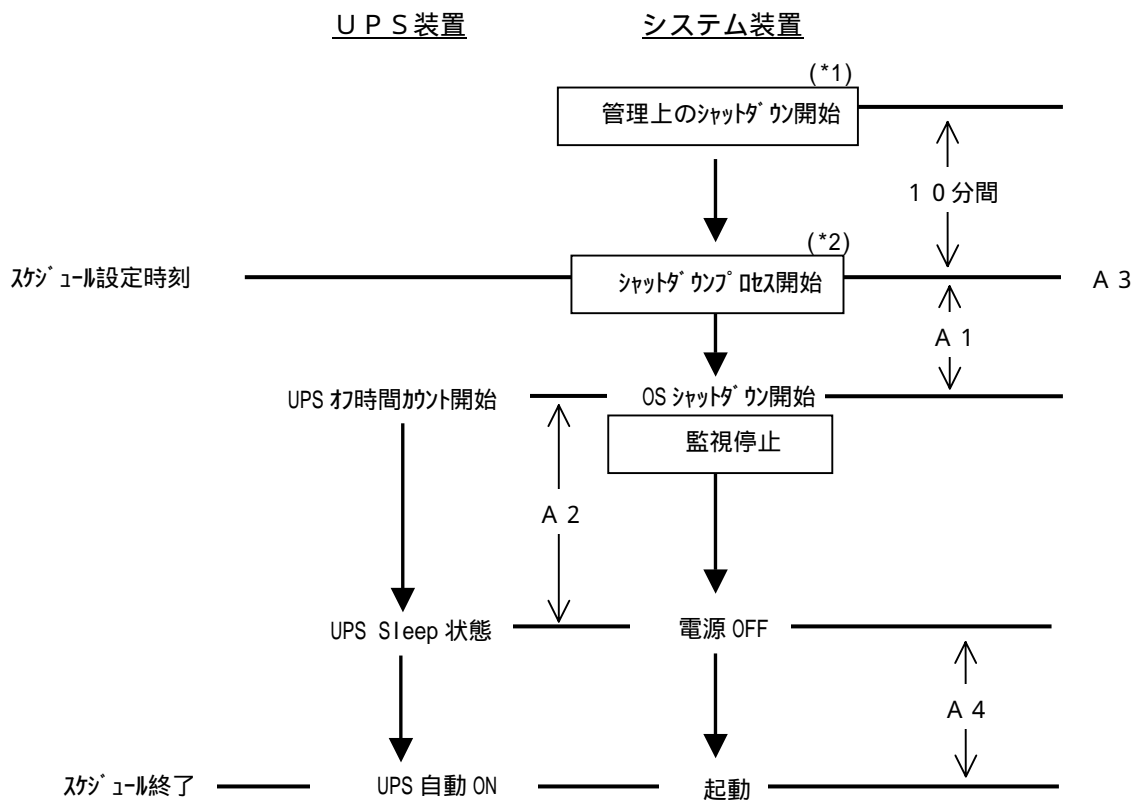
8 . スケジュールシャットダウンシーケンスについて

8 . 1 UPS 拡張ユニット未使用時

UPS 装置とシステム装置が 1 対 1 で接続されている場合の、スケジュールリング時のシャットダウンシーケンスを以下に示します。

設定項目一覧

設定項目	
コマンドファイル実行所要時間 (分)	A 1
OS のシャットダウンに必要な時間 (秒)	A 2
シャットダウンの日時 (スケジュール設定時刻)	A 3
次の期間経過後 UPS を再起動 (分)	A 4



□ は、OS のイベントログに記録されるメッセージ

*1：ログには、「～に設定されている管理上のシャットダウンが～で開始されました。」と残ります。

*2：ログには、「シャットダウン開始されました。まもなくシャットダウンが行われます。」と残ります。

補足：

- ・UPS 装置とシステム装置が 1 対 1 で接続されている場合でも、UPS 装置のアクセサリスロットに I/F 拡張ボード (システム装置未接続) がささっている場合には、「7 . 2 UPS 拡張ユニット使用時」のシャットダウンシーケンスとなります。

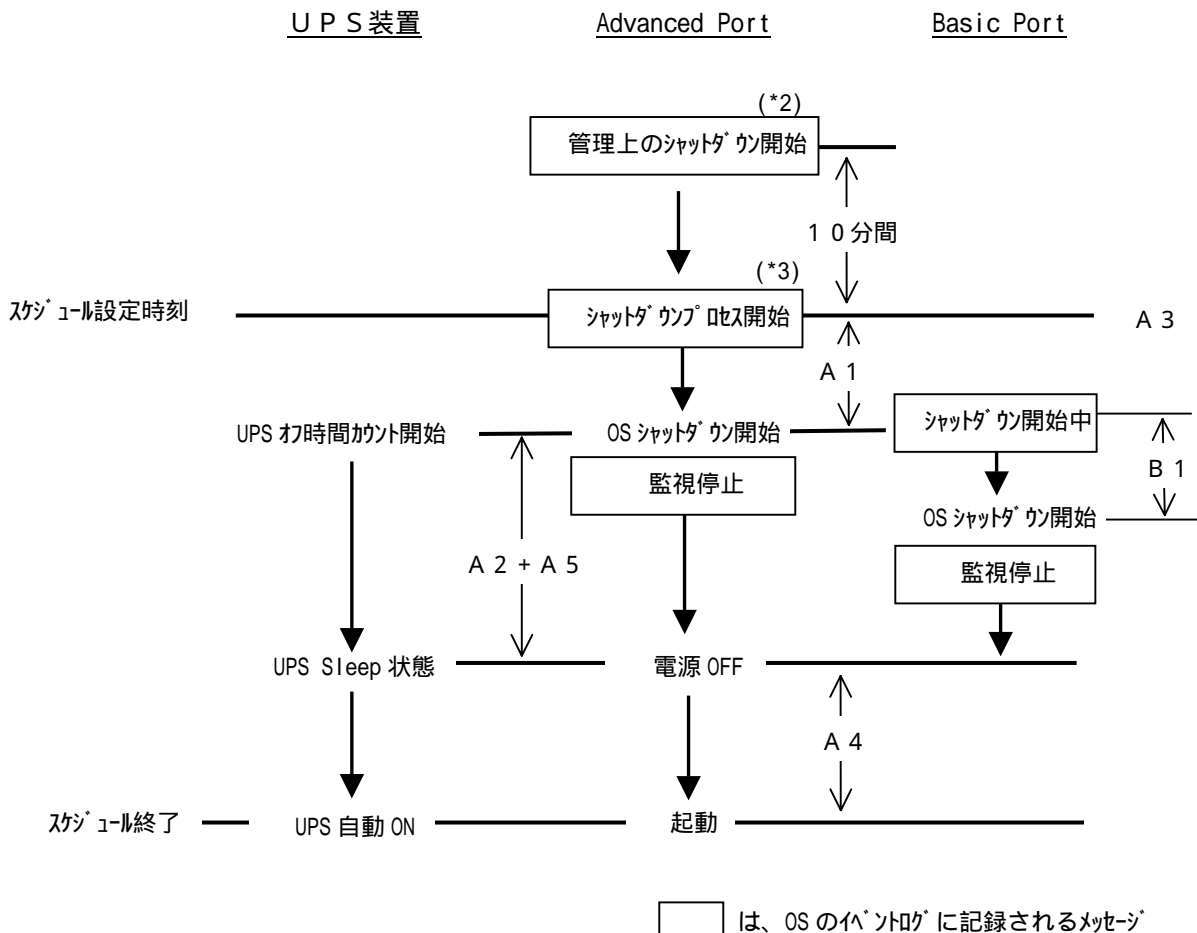
8.2 UPS 拡張ユニット使用時

UPS 拡張ユニットを使用して、UPS 装置に複数台のシステム装置を接続した場合の、スケジュールリング時のシャットダウンシーケンスを以下に示します。

設定項目一覧

設定項目	Advanced Port	Basic Port
マウントファイル実行所要時間(分)	A 1	B 1
OS のシャットダウンに必要な時間(秒)	A 2	-
シャットダウンの日時(スケジュール設定時刻)	A 3	-
次の期間経過後 UPS を再起動(分)	A 4	-
UPS ロ-バッテリー信号時間(分) (*1)	A 5	-

*1: 本設定項目は、PCBE コンソールから設定することはできません。PCBE エージェント WebUI から設定を行ってください。詳細は、「6.5 PCBE エージェント WebUI」をご覧ください。



*2: ログには、「~に設定されている管理上のシャットダウンが~で開始されました。」と残ります。

*3: ログには、「シャットダウン 0秒が開始されました。まもなくシャットダウンが行われます。」と残ります。

補足:

スケジュール設定時のシャットダウン・プロセスはタイマーモード、コンファームモード、ローバッテリーモードの違いはありません。

PowerChute® Business Edition v6.1.2J

補足説明書 日立編

3版 2008年10月

無断転載を禁止します

**株式会社 日立製作所
ソフトウェア事業部
インターネットプラットフォーム事業部**